

製品名: IRF7 (1D12) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe12748**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IP
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02%新型保存料 N、50%グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IP 1:20-1:50
分子量	54kDa

抗原情報

遺伝子名	IRF7
別名	IRF7; Interferon regulatory factor 7; IRF-7; IRF7A; IRF-7H;
遺伝子 ID	3665.0
SwissProt ID	Q92985
免疫原	ヒト IRF7 の組み換えタンパク質

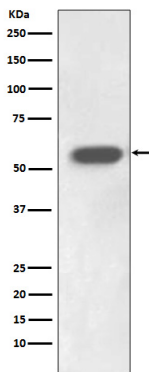
背景

EBV 核抗原 1a (EBNA1) の Q プロモーター (Qp) に結合し、EBV 潜伏期の調節に関与している可能性がある。マクロファージにおいて異なる遺伝子発現プログラムを活性化し、初代マクロファージの抗腫瘍特性を調節することができる。I 型インターフェロン (IFN) 依存性免疫応答の重要な転写調節因子であり、DNA および RNA ウイルスに対する自然免疫応答において重要な役割を果たしている。I 型 IFN 遺伝子 (IFN- α および IFN- β) および IFN 刺激遺伝子 (ISG) の転写を、それらのプロモーター内のインターフェロン刺激応答エレメント (ISRE) に結合して調節する (PubMed:17574024、PubMed:32972995)。IFN-beta (IFNB) および IFN-alpha (IFNA) 遺伝子の両方を効率的に活性化し、ウイルス活性化 MyD88 非依存性経路と TLR 活性化 MyD88 依存性経路の両方を介してそれらの誘導を媒介します。リポ多糖 (LPS) またはウイルス感染に反応して、I 型 IFN 依存的にコビキチン加水分解酵素 USP25 mRNA の転写を誘導します (類似性による)。IFN 遺伝子誘導の初期および後期の両方で必要ですが、初期よりも後期の方が重要です。感染していない細胞の細胞質内に不活性な形で存在し、ウイルス感染後、二本鎖 RNA (dsRNA)、または Toll 様受容体 (TLR) シグナリングは、IKBKE および TBK1 キナーゼによってリン酸化されます。これにより構造変化が誘導され、二量体化と核局在が起こり、他のコアクチベーターとともに I 型インターフェロン (IFN) および ISG 遺伝子の転写を活性化します。また、PSMB9/LMP2 の発現を直接または IRF1 の誘導を介して誘導することにより、適応免疫応答の調節にも関与します。EBV 核抗原 1a (EBNA1) の Q プロモーター (Qp) に結合し、EBV 潜伏期の調節に関与している可能性があります。マクロファージにおいて異なる遺伝子発現プログラムを活性化し、一次マクロファージの抗腫瘍特性を調節します (類似性による) (PubMed:11073981、PubMed:12374802、PubMed:15361868、PubMed:17404045)。

研究分野

免疫学

画像データ



Jurkat 細胞溶解物における IRF7 発現のウェスタン ブロット分析。